



・・・メンバーの体験談・・・

昨年、私があるカウンセラー養成講座のエンカウンターに参加した時のことです。

その時の担当講師はとても穏やかな感じで、メンバー14人を笑わせたりしながら、温かい雰囲気の中、エンカウンターは進められていきました。私はここで、今私が抱えている問題を思いついて話してみようと思いました。

離婚して長野県に住んでいる私の妹の中学3年生の息子が、以前から非行をくり返しており、とうとう逮捕されてしまいました。今後甥っ子を友達と引き離すために、私の住んでいる千葉に引っ越してはどうかというのを妹と話し合っていたのですが、本人が納得しないことにはうまくいかないだろうということと弁護士さん等からも聞き、行詰っていると話しました。そしてまた私は妹からずっと話を聞いてきて、どう関わって

いけばいいのか悩んでいるという話を話しました。

ただ「大変だね」「辛いね」と話を聞いていても、何の役にも立っていないのではないかと今更原因を探ったところで妹を責めることになるのではと思っていたのです。

先生は、まず私が妹に何ができるのかをしつこく考えさせました。私はいろいろと話しましたが、結局は今すぐに解決できることではないことに気付かされました。

すると先生は「手の内を明かして、私に何かできることはある？と聞いてみればいいんじゃないかな。」とおっしゃり、私は一人で何とかしなければならぬと空回りしていたことに気付かされました。

「一緒に泣くことがあった方がいいんじゃないの。」と言われて、今までそんなことは無かったなと思いました。

「お姉ちゃんだから泣いちゃいけないとか考えてるの？」と聞かれた時に私は母の事を思い出し、涙が出ました。13年前に母を、その5年後に父を亡くし



てからは、両親の代わりに私に何ができるかということを考えていたことに気付きました。

その時は話が広がると思い、話しませんでしたが、私達姉妹がまだ20代の頃、二人で暮らしていた時に、妹にとっても悲しい出来事が起こりました。妹はショックで夜中に過呼吸になり、救急車を呼んだこともありました。

妹は実家にしばらく帰ることにになり、実家に向かうと母が外で待っていて、駆け寄ってきて抱きしめてくれたと以前妹から聞いて、母の温かさを改めて感じました。

その事私がその心の中にあり、母が生きていたら助けてくれただろうと思ひ、私

は母の代わりになりたかったのだと気付きました。でも、私では母の代わりにはなれないとも感じました。

私には何もできないんだというのを認めた上で、いつでも力になりたいと思っているというのを伝えていくことが大切だと教えていただきました。

また、妹の本当の気持ちを知らずのことを私自身が恐いとも感じていました。妹が自分の子育てを責め、壊れてしまうのではないかと不安を感じていました。

そのため、大変だね、辛かったねというような表面的な言葉しか言えなかったのかもしれない。先生はそれに対して「人間はそう簡単に壊れてしまうものではないよ。」裏切られて悔しかったよね、とか何も出来ずに情けなかったよねというよ

うな言葉もかけられるといいかもしれないね。」とおっしゃり、そういう妹の気持ちに寄りそうことこそ大切なのだと納得しました。

話を聞いていただいて、私がかしななければと苦しくなっていたこと、母親の代わりになりたかったこと、何もできなくても力になりたいということがわかり、すっきりしました。

年に関わるボランティア活動をしていたので相談できる人がいたり、千葉で一一緒に教育相談を受けに行ってくれたことをとても心強かったと話してくれました。

また「自分は結婚して長野で暮らしてきたけど、根を張ることができなかった。でもお姉ちゃん根を張っているんだね」と言っていて、そういう私がいることが支えになったと話してくれました。私は妹の言葉を聞き、とてもほっとしました。そして正直に話したことで、より妹と対等で近い関係になった気がしました。もともと趣味も合い仲は良かったのですが、より何でも話せ、お互いを一番良く知っている親友のようだと感じています。

結局、妹親子が千葉に来ることは叶いませんでした。今も甥っ子が中学を卒業したこと以外はあまり変わりありませんが、妹は辛抱強く、息子の話を聞くときは聞き、言うことは言うという感じで関わっています。

私も今すぐに状況を変えることは無理なことで、長い目で見守っていきます。「16歳、まだまだこれからだよ。」という言葉を抱いて。
(N・Y)